

タゲリ（チドリ科） 全長32センチ

今年は積雪が少なく、3月に入ると農道は黒い土が顔をのぞかせてきた。野鳥観察に出かけられる好条件となった。

3月10日、大浦沼周辺の田んぼにタゲリが飛来していると野鳥仲間のMさんから電話が入った。

早速現場に駆け付けると、沼に接する田んぼで6羽のタゲリがちょこちょこ動き回っていた。足繁く歩きながら、土に潜むミミズなどの昆虫類を探しているようだ。数年前にタゲリが飛来した場所とかなり近いことから、大浦沼は渡りの中継地点になっているのでしょうか。

6羽は、田んぼの中を縦横に移動しながら餌探しに夢中です。アップで見ると、片方の足を地面に置き小刻みに震わせている。貧乏ゆすりにも見えてしまいましたが、これは彼らが餌を獲るため進化した特技なのです。



2羽が並んでくれた。冠羽が特徴的。

一羽のタゲリがクチバシを素早く土に刺し込み、細長いものを引き出し一瞬にして飲み込んでしまった。ミミズのような。やがて6羽のタゲリは、沼の向こう側に移動してしまった。

直ぐ後を追いつき、着地点を発見。あまり警戒心はありません。



土の中から引っ張り上げたのはミミズか？



兜のようにも見えます。

農道に車を止め撮影していると、畦道に上がったタゲリは徐々に車に近づいてきた。車から5メートルの近さだ。野鳥から車に近づくことはあまりないことで、こちらが緊張してしまった。

やがて、Uターンして同じ道に戻って行った。お蔭で鮮明な映像が撮れました。頭上にせり上がる冠羽を正面から見ると、戦国武将の兜のようだ。



畦道に上がり、車に近寄って来た。



羽の裏側は白く、尾羽の付け根は茶色でした。